

坂東市将門ハーフマラソン大会災害時対応マニュアル（案）

【大規模地震編】

坂東市将門ハーフマラソン大会の開催中に大規模地震が発生した際の対応マニュアルです。このマニュアルは、参加ランナー、大会スタッフ、観客の安全を確保することを最優先とし、迅速かつ冷静な行動を促すためのものです。

1. 事前準備

情報収集体制の確立: スタッフは災害時における正確な情報（地震情報など）を迅速に入手できるよう、インターネット環境、ラジオ、防災無線、緊急速報メールなどの体制を整えておくこと。

役割分担の明確化: 大会スタッフの役割を事前に明確にし、誰がどのような対応を取るかを周知徹底する。

- ・ 競技の中止決定→総務部門大会本部・出発審判部門
- ・ 避難誘導→コース部門
- ・ 負傷者対応→医務衛生部門
- ・ 情報伝達→総務部門・会場部門
- ・ 一時避難者対応→選手部門

避難場所の確認と周知: コース周辺の安全な避難場所（小学校・公民館など）を事前に確認し、スタッフ間で共有する。

資機材の準備: 拡声器、救急用品、飲料水、食料などは、大会運営で備えているものを利用する。

緊急連絡網の整備: 大会本部は、警察、消防、医療機関など、関係機関への緊急連絡網を整備し、いつでも連絡が取れるようにしておく。

2. 地震発生時の行動

2.1. 発生直後（揺れがおさまった直後まで）

冷静な行動: スタッフは参加者、観客がパニックにならず、落ち着いて行動するよう促す。

身の安全確保

屋外:コース内やスタッフの配置先で建物、電柱、看板、自動販売機などから離れ、カバンなどで頭を守りながら身を低くする。

屋内:丈夫な机やテーブルの下に隠れ、頭を守る。

周囲への声かけ:スタッフは負傷者がいないか確認し、周囲にいる人にも冷静になるよう呼びかける。

2.2. 揺れがおさまった後

大会本部の指示を待つ:スタッフはアナウンスや広報車、SNS 等を活用した指示を待ち、参加者に伝える。むやみに移動しない。

スタッフによる状況確認

コース確認:コース上の安全を確保できるか確認する。道路の陥没、橋の損傷、建物の倒壊などの危険がないか確認し大会本部へ連絡する。電話が繋がらない場合は、近くにスタッフによる伝言での連絡も想定する。

火災確認:火災が発生していないか確認する。火元の始末を行う。

負傷者確認:コース上や各地点で負傷者がいないか確認し、応急処置を行う。

情報収集:大会本部が、地震の規模、余震の可能性など、災害情報を収集する。

3. 競技の中止・継続の判断と伝達

競技中止の基準

震度 5 弱以上の場合など、大規模な地震と判断された場合は、速やかに競技を中止する。

コースの安全が確保できない場合や、救急活動に支障をきたす場合は中止とする。

伝達方法

アナウンス:拡声器や場内放送、広報車、公式 SNS の投稿で、競技中止と避難を知らせる。

スタッフの声かけ:スタッフが声かけやジェスチャーなどで、競技の中止と避難を誘導する。

SNS/ウェブサイト:公式 SNS や大会ホームページで、最新情報を発信する。

4. 避難誘導

冷静な誘導:スタッフは落ち着いて、参加者を安全な場所へ誘導する。コース内の参加者は、原則スタッフの引率のもと主要な幹線道路を使用して徒歩で大会会場に戻ります。

多言語対応:外国人参加者もいることを想定し、多言語での対応が可能な翻訳アプリ等を備える。

避難時の注意

荷物:避難の際は、大きな荷物を持ち出さないよう指示する。

エレベーター:岩井公民館ではエレベーターは使用せず、階段を利用して避難させる。

車:車を使わず、徒歩で避難させる。

障害物:避難経路に倒壊物がないか確認しながら誘導する。

5. 避難場所での対応

状況報告:避難場所では、スタッフが参加者の人数や負傷者の状況などを大会本部に報告する。

情報提供:避難場所でも、災害情報を参加者に提供する。

安否確認:参加者・スタッフの安否確認を行う。

帰宅支援:災害が落ち着いた後、交通機関の運行状況を確認し、帰宅困難者への情報提供や支援を行う。手荷物を預けた参加者は受け取りしてください。
※手荷物預かり所に残っている荷物は、後日郵送いたします。ナンバーカード番号の記入がないものは、事務局で保管いたしますので、後日半券をお持ちになり受け取りください。

6. マニュアルの訓練と周知

定期的な訓練:大会スタッフは、このマニュアルに基づいた訓練を定期的に行う。

参加者への周知:事前に参加者に向けて、災害発生時の対応に関する情報を周知する。大会当日の配布物やウェブサイトを確認できるようにする。